

総合計画体系	政策No. 1	政策名	安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成	施策主管課	総合政策部 ユネスコエコパーク推進室
	施策No. 4	施策名	自然と共生する地域づくり	施策主管課長名	村松 直樹
施策関連課名		政策推進課、環境課、みどり自然課			

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等	③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない																		
市民 事業所 自然環境	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>人口(外国人含む)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>事業所数(経済センサス基礎調査)</td> <td>事業所</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>市の面積</td> <td>km<sup>2</sup></td> </tr> </table>	名称		単位	A	人口(外国人含む)	人	B	事業所数(経済センサス基礎調査)	事業所	C	市の面積	km <sup>2</sup>						
名称		単位																	
A	人口(外国人含む)	人																	
B	事業所数(経済センサス基礎調査)	事業所																	
C	市の面積	km <sup>2</sup>																	
② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	④ まちづくり指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない																		
豊かな自然資源の保全・活用への関心が高まる。 人と自然が調和した持続可能なまちづくりが行なわれる。	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>ユネスコエコパークの認知度</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>登山ガイド・自然ガイド認定登録者数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>自然エネルギーの活用による発電量</td> <td>kwh</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>公用車クリーンエネルギー化率</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	名称		単位	A	ユネスコエコパークの認知度	%	B	登山ガイド・自然ガイド認定登録者数	人	C	自然エネルギーの活用による発電量	kwh	D	公用車クリーンエネルギー化率	%	E		
名称		単位																	
A	ユネスコエコパークの認知度	%																	
B	登山ガイド・自然ガイド認定登録者数	人																	
C	自然エネルギーの活用による発電量	kwh																	
D	公用車クリーンエネルギー化率	%																	
E																			
<p>・まちづくり指標設定の考え方(理由、数式も)</p> <p>・まちづくり指標の測定規格(手段はアンケートか、統計か)</p>	<p>A: 自然との共生についての市民の認識を示す。【市民アンケートの「あなたは、ユネスコエコパークについてご存知ですか?」において「知っている」と回答した人の割合】</p> <p>B: 自然環境の保全に関する取り組みを示す。【①南アルプスガイドクラブ登録ガイド数(日本山岳ガイド協会公認ガイド[4月1日現在])、②南アルプス市ネイチャーガイド協会における認定ガイド数、③南アルプス市在住のNACS-J自然観察指導員登録者数の合計】</p> <p>C: 新エネルギーの普及状況を示す。【自然エネルギー活用による発電量(金山沢川発電所発電量+公共施設太陽光発電量)】</p> <p>D: 公共設備における環境負荷の低減を示す。【全公用車のうち低公害車等の占める割合(低公害車等台数÷全公用車台数)】</p>																		

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
対象指標	A 人	見込み値		72,644	72,322	72,001	71,680	71,359	71,038
		実績値	72,963	72,715	72,305				
	B 事業所	見込み値		3,161	3,161	3,161	3,161	3,161	3,161
		実績値	3,161	3,161	3,161				
	C km <sup>2</sup>	見込み値		264.07	264.14	264.14	264.14	264.14	264.14
		実績値	264.07	264.14	264.14				
まちづくり指標	A %	目標値	未設定	未設定	30.0	35.0	40.0	45.0	50.0
		実績値	未把握	26.5	39.4	38.3			
	B 人	目標値	未設定	52	74	84	94	104	114
		実績値	19	52	50				
	C kwh	目標値	実績値	1,062,900	1,089,400	1,115,900	1,142,400	1,168,900	1,195,000
		実績値	980,130	1,166,528	1,134,105				
	D %	目標値	未設定	未設定	37.0	39.0	41.0	44.0	45.0
		実績値	32.5	34.5	34.9				
	E	目標値							
	実績値								
関連事業本数			38	43	29	26			
関連事業予算額(単位:千円)			89,070	125,329	65,600	55,376	0	0	0
(予算額の内訳)	国庫支出金		0	0	0	0			
	県支出金		23,920	33,255	31	31			
	地方債		0	14,100	0	0			
	その他		6,473	30,583	19,710	20,515			
	一般財源		58,677	47,391	45,859	34,830			

目標値の設定の根拠(前提条件や考え方等)

A: エコパークの周知活動を推進し、5年間で約25%の増加を目指す。  
 B: ①南アルプスガイドクラブ登録ガイド数はH31年まで現況の27人を維持し、②南アルプス市ネイチャーガイド協会における認定ガイド数は年間約10人の認定を目指す、③NACS-J自然観察指導員登録者数は現在認定されている12人の維持を目指す。(H25年度実績:①0人+②9人+③10人=19人、H31目標値:①27人+②75人+③12人=114人)  
 C: H26年度に見込まれる発電量をもとに目標値を積算。基準値(H26)1,062,900kwh=金山沢発電想定量370,000kwh(740,000kwhの50%) + 公共施設太陽光発電想定量692,900kwh  
 目標値の伸び率を年間実績に基づき2.5%と設定(H31基準値×12.5%=1,195,762kwh、H25年度実績値:小水力発電338,880kwh+太陽光発電641,250kwh)  
 D: 公用車の低公害車(燃費基準達成車・ハイブリット車・電気自動車等)の導入率。管財契約課の公用車更新計画をもとに算出。

### 3 評価結果

#### 施策の有効性評価

##### ① 目標達成度評価（目標値と実績値との比較）

- 目標値より高い実績値だった  
 目標値どおりの実績値だった  
 目標値より低い実績値だった

##### ※左記の理由

「自然エネルギーの活用による発電量」については、水力発電所の発電量が過去最高であったことから、44.705kwh増えた。  
 また、「公用車クリーンエネルギー化率」は、目標に対し2.1ポイント下回ったものの、昨年から0.4ポイント上がった。  
 ユネスコエコパークの認知度については、登録2年目で約1ポイントの減少となったが、目標値を上回っている。

##### ② 時系列比較（過去5ヶ年の比較）

- 成果がかなり向上した  
 成果がどちらかと言えば向上した  
 成果はほとんど変わらない（横ばい状態）  
 成果がどちらかと言えば低下した  
 成果がかなり低下した

##### ※左記の理由

「自然エネルギーの活用による発電量」は、公共施設への太陽光発電を順次導入したことと、水力発電量の増加により、平成23年度値と比較すると平成27年度の実績値は約15%増加した。

##### ③ 他自治体との成果実績値の比較

- かなり高い成果水準である  
 どちらかと言えば高い成果水準である  
 ほぼ同水準である  
 どちらかと言えば低い成果水準である  
 かなり低い成果水準である

##### ※左記の理由

太陽光発電の導入に加え、小水力発電の導入にも取り組んでいる。

##### ④ 住民の期待する成果水準との比較

- かなり高い成果水準である  
 どちらかと言えば高い成果水準である  
 ほぼ同水準である  
 どちらかと言えば低い成果水準である  
 かなり低い成果水準である

##### ※左記の理由

公共施設での発電量は増加しているが、市民からの太陽光発電等の設置補助申請数は減少している。

### 4 まとめ

#### 施策の課題抽出とその課題解決（成果向上）の方向性と具体的な取組内容

施策の課題抽出	課題解決の方向性	具体的な課題解決・改善内容
公共施設における太陽光発電システムの老朽化が進行し、不具合が発生している。	各施設管理担当による適切な維持管理を徹底する。	年間を通じて適切な維持管理業務委託により状況を把握するとともに、不具合が生じた場合は、速やかな予算措置と対応に努める。
広河原を中心に生息する希少な高山蝶（クモツマキチョウ）の乱獲が危惧されている。	個体数の生息状況確認を行うとともに、保護におけるパトロールとPR活動を行う。	①個体数の調査 ②希少動植物の保護パトロールの実施 ③保護におけるPR活動の実施
世界自然遺産に比べユネスコエコパークの理解度や認識は低い。	行政主導で始まった事業であるため住民や事業者へのユネスコエコパーク周知活動を推進する必要がある。 (1)世界自然遺産登録推進協議会の活用 (2)管理運営体制の構築 (3)普及・啓発事業 (4)情報発信の充実	(1)世界自然遺産登録推進協議会の活用 ・地域連絡会議（定例担当者会議）の開催 ・南アルプススカレッジの開催 （3県10市町村の取組や施設等の視察） (2)管理運営体制の構築 ・南アルプス市ユネスコエコパーク保全活用推進協議会の設置 (3)普及啓発事業 ・各種説明会・講座の開催（企業・住民・市職員・学校など） ・芦安山岳館の展示内容充実 (4)情報発信の充実 ・ホームページの充実（市HP・ユネスコエコパークHP） ・フェイスブックによる情報発信 (5)その他 ・国内ユネスコエコパークネットワーク会議への参画 ・国内外の生物圏保存地域における情報収集
	目標、取組みエリアを明確にして、具体的な事業実施につなげる。まずは本市がこれまで取組んで来た事業（自然体験プログラム実施、ガイド育成等）を活かした環境教育の推進を行う。取組みエリアは楡形山及び伊奈ヶ湖周辺を中心に行う。	子供たちが小学生過程において地域資源を体験し、地域を語れるような取組み。 ・自然環境教育、学校登山の推進（市内小学生向け） ・楡形山の活用、保全 ・伊奈ヶ湖周辺施設の活用、充実 ・人材育成及び民間組織の活用等